

第1章

プロジェクトの概要

第1章

プロジェクトの概要

1. 取組の概要・内容と年度計画

戦略名：実践力を身に付け、現代的課題に対応した高度な教員の養成

取組名：「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成

—アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発—

計画期間：平成28年度～令和3年度（2016年度～2021年度）（6年）

取組概要：

主体的に考え表現する「学習者中心の双方向的な学習」の授業形態（アクティブ・ラーニング）を導入した授業の実施が重要であり、初等・中等・大学教育において「知の活用」「確かな学力」をもった教員育成のため、アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法を開発し、「主体的・協働的な学び」を学校現場で実践できる教員を養成する。更に、現職教員に向けた研修を実施する。

【目的・目標】

学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」等の主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力を育成するために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を学士課程、大学院課程ともに全開講授業の6割以上で導入する。

【戦略における位置付け】

愛知教育大学は広域拠点型教育大学として、わが国の学校教員のさらなる質の向上を目指している。その戦略の一つとして、実践力を身に付け、現代的課題に対応できる高度な教員の養成が必要である。その戦略を実施するにあたり、学生・現職教員・大学教員を包括的に対象とした本取組は、最優先の位置づけにある。

【必要性】

多極化・グローバル化する現代社会の中で、生きる力・人間関係を形成する力など多様な能力をもつ人材を育成することが学校教育全体に求められている。社会全体の大きなダイナミズムに適応するためには、従来型の「教員者中心の一方通行的な知識享受」の授業形態だけでは対応できない。主体的に考え表現する「学習者中心の双方向的な学習」の授業形態（アクティブ・ラーニング）を導入した授業の実施が重要である。

【全体計画】

アクティブ・ラーニング（以下ALという。）を導入した新たな学習指導方法を開発して、「主体的・協働的な学び」を学校現場で実践できる教員を養成するための具体的な取組概要は次のとおりである。

- AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
- AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
- AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
- AL授業の指導方法・教材の開発、AL授業の推進・拡充

【平成28年度（実績）：1年目】

- (1) 本事業と学生との関連性
 - ①本学でアクティブ・ラーニング（以下ALという。）を導入した授業を実施した。
 - ②ALを実践できる教員を養成するプログラムを開発した。
- (2) 本事業と現職教員との関連性
 - ①教育現場にALを導入・実践できるように現職教員を研修・サポート体制を構築した。
 - ②本学がALの効果を体感する機会を付与した。
- (3) 本事業と本学との関連性
 - ①ALを効率的に実施できる学習指導方法を開発した。
 - ②より深い学びができるAL授業をサポートするための教材開発を実施した。
 - ③教育現場にALを推進・拡充した。

【平成29年度（実績）：2年目】

- (1) AL授業を実践できる教員養成プログラムの開発
 - ①ICT活用指導力の基礎を身に付けるとともに、「いかに学ぶか」を目的とした教員養成ICT活用ワークブックを開発し、共通科目において全学生を対象に実施した。さらに、その有効性や改善点などを明確にし、改善を行った。（次年度以降も継続）
 - ②本学で協定が結ばれたクロスアポイントメント制度を最大限に活用し、ICT機器導入の授業を支援する体制、教員養成の学生のICT活用指導力を育成するために導入支援員制度を構築した。
 - ③ALに対する未来の教員としての意識改革をはかるためにFDを開催した。（次年度以降も継続）
 - ④e-learningシステムを活用したAL型授業を試行した。
 - ⑤「電子黒板」や「デジタル教科書」を用いた新たな授業形態に対応するために、模擬授業などでこれらを積極的に活用した。
- (2) AL授業を実践できる現職教員の研修プログラムの開発
 - ①現職教員を対象とした研修を実施した。
 - ②教員免許更新講習や公開講座などで、AL活動を取り入れた講習を実施した。
- (3) AL授業を実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①ICTを活用できる学習環境を整備した。また、AL型の授業支援のためにICT機器貸出しシステムの運用を開始した。また、ICT導入支援員制度を構築した。前期に試行し、後期に実施した。
 - ②ALに対する教員の意識改革を図るために、ワークショップ型のFDを開催した。

【平成30年度（実績）：3年目】

(1) AL授業支援のためのICT機器導入システムの運用

本学教員のAL授業をするために、学生サポーターが授業に出向きICT機器の貸出し・支援するシステムである。本年度の授業実績は、前期で60コマ、後期で65コマである。また、学生サポーターは20名である。

(2) 現職教員に向けたAL授業の講習

免許更新講習「小学校におけるプログラミング教育」（H30.9）「電子黒板とタブレットを活用した授業づくり」（H30.8.22）を開催した。

(3) 本学学生に向けたAL授業実践

共通科目「情報教育入門」（19クラス）でAL授業を実施した。ALプロジェクトの各メンバーで、「初年次演習」「教職実践演習」にAL授業を実践した。

(4) ALに関するFD開催と教員参加数

本年度はFDを5回開催し、最低1回でも参加した教員数は109名（全教員に対して51%）であった。

(5) 本学教員を対象としたALアンケートを実施

本年度開講授業に対するAL授業の実施状況のアンケートを実施した。その結果、AL授業の実施率（AL授業を導入した授業コマ数/担当授業コマ数）は、学部授業で71%、大学院授業で78.5%であった。

(6) 学生による能動的学びの自己評価度数

授業改善アンケートの中から、ALに関連した2つの質問について「①強くそう思う+②ややそう思う」の割合の総和（前期+後期）の平均値を評価した。結果は以下ようになった。

○質問「授業で提示された課題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」に対して64%。

○質問「授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな考えを展開した。さらにその思考に基づき行動した。」に対して60%。

【平成31年度（令和元年度）：4年目】

(1) AL授業支援のためのICT機器導入システムの運用

本学教員のAL授業を支援するために、学生ICT支援員が授業に出向きICT機器の貸出し・支援するシステムである。本年度の授業実績は、前期、後期あわせて122コマである。今年度の学生ICT支援員は25名である。（平成30年度授業実績：125コマ，学生ICT支援員：20名）

(2) ALルームの開設

今年度から研究補佐員と学生ICT支援員が中心となって、本学教員と学生を対象にしたICT機器の使用方法・授業での活用方法・授業支援を行う講習会を実施している。前期（夏休み期間含む）に40回（参加人数：教員4名，学生23名），後期に18回（参加人数：教員1名，学生5名）を実施している。

(3) 小学校プログラミング簡易講習会の開催

A Lルームを利用して、学生が講師となって11/21～12/24の期間中に合計11回開催した。

(4) A Lに関するFD講演会と教員参加数

本年度は以下のようにFD講演会を3回開催し、最低1回でも参加した教員数は69名（全教員に対して33%の参加率）であった。（平成30年度FD講演会5回開催、教員参加数109名（参加率51%））

・7/17「アクティブ・ラーニングの授業デザインについて考える」（大阪大学、村上正行氏）58名

・7/31「授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」を使ったワークショップ」（株式会社LoiLo、澁谷洋平氏）24名

・10/31「保育者養成における演劇体験のリアリティをどう考えるか」（東京家政大学、花輪充氏）12名

(5) 本学教員を対象としたA Lアンケートを実施

本年度開講授業に対するA L授業の実施状況のアンケートを実施した。その結果、A L授業の実施率（A L授業を導入した授業コマ数/担当授業コマ数、中期計画目標値60%以上）は、学部授業で76%、大学院授業で87%であった（R2.3.13現在速報値）。（平成30年度学部授業71%、大学院授業78.5%）

(6) 学生による能動的学びの自己評価度数

授業改善アンケートの中から、A Lに関連した以下の2つの質問について「①強くそう思う+②ややそう思う」の割合の総和（前期+後期）の平均値を評価した。結果は以下ようになった。質問「授業で提示された課題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」に対して67%。（平成30年度64%）質問「授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」に対して62.7%。（平成30年度60%）

【令和2年度：5年目】

(1) A L授業を実践できる教員養成プログラムの開発

①これまで開発してきた教員養成プログラムの効果を検証し、体系化する。

②学生ICT支援員がメタ視点に立つ経験を通して、どのような学習観の変化があるかを調査する。

(2) A L授業を実践できる現職教員の研修プログラムの開発

①開発した研修プログラムを教員免許更新講習および公開講座等で実施し、学習効果について実践的に評価する。

(3) A L授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発

①アンケート調査により現状におけるA Lの実施の問題点、研修プログラムの問題点を把握する。

②学内で実施されているA Lの授業記録を公開する。

【令和3年度：6年目】

- (1) AL授業を実践できる教員養成プログラムの開発
 - ①教員養成プログラムを受講し，教員となった学生への（追跡）調査を行う。
 - ②AL教材の導入実態を調査し，その効果を総括する。
- (2) AL授業を実践できる現職教員の研修プログラムの開発
 - 研修プログラムを広く公開し，他教育機関への普及に努める。
- (3) AL授業を実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①大学教員に対する研修プログラムを体系化し，運用を開始する。
 - ②大学におけるAL型の授業を全授業の6割で開講する。